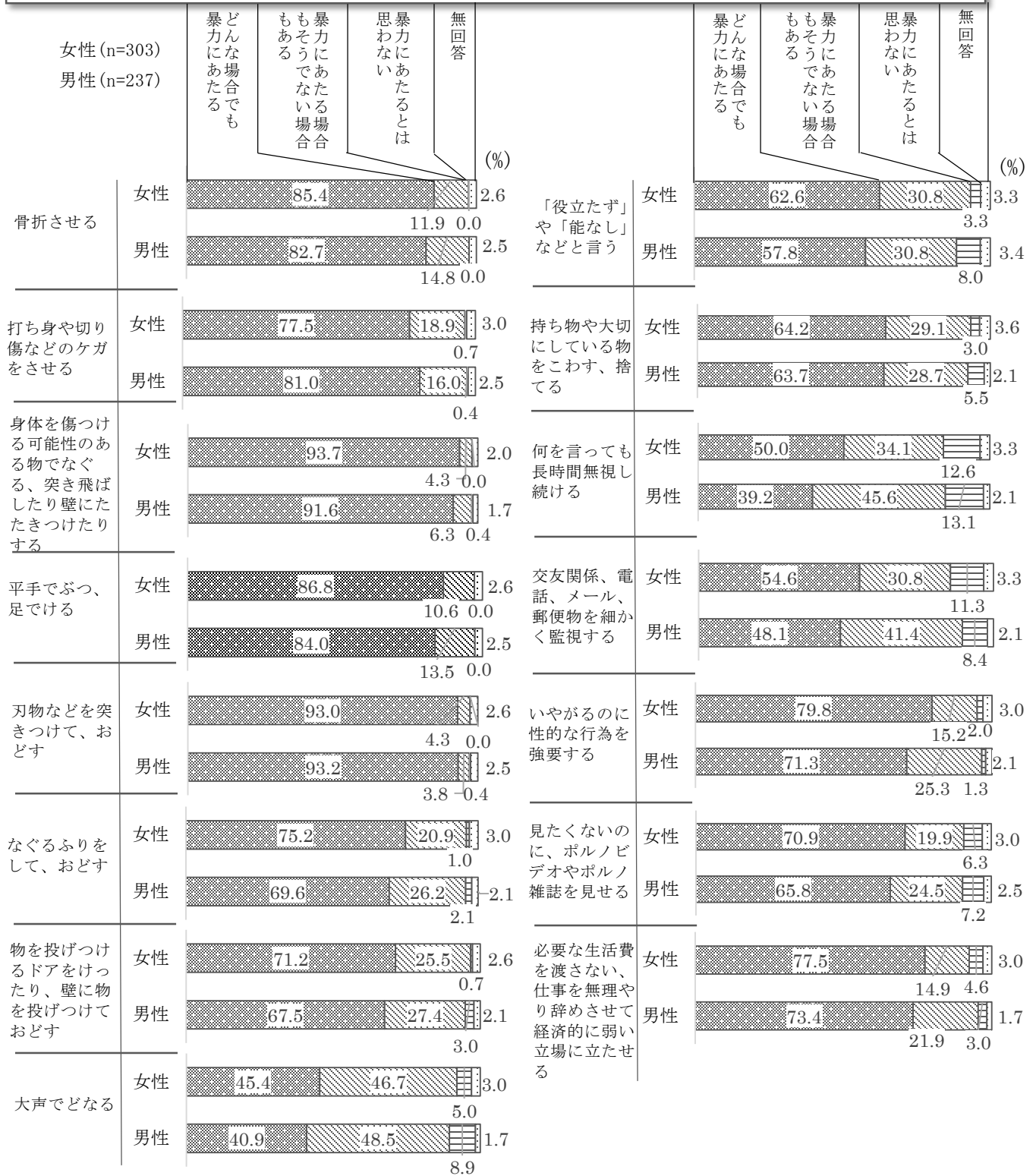


6 暴力について

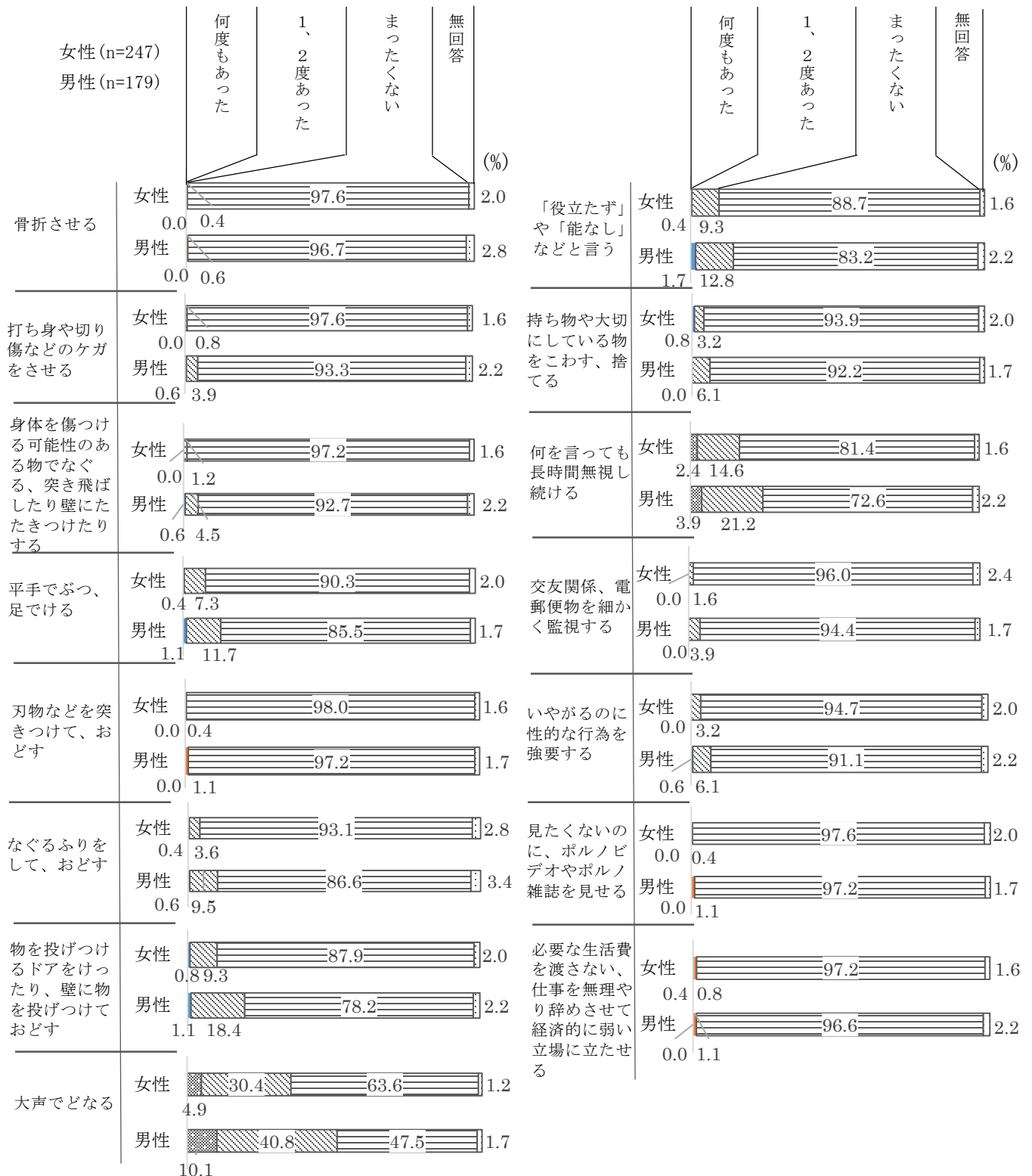
1 夫婦間の暴力と認識される行為

男女ともに身体に対する行為では、ほとんどの項目で「どんな場合でも暴力にあたる」が高くなっています。【何を言っても長時間無視し続ける】では、女性のほうが10.8ポイント高く、暴力に対する認識の差が大きくなっています。



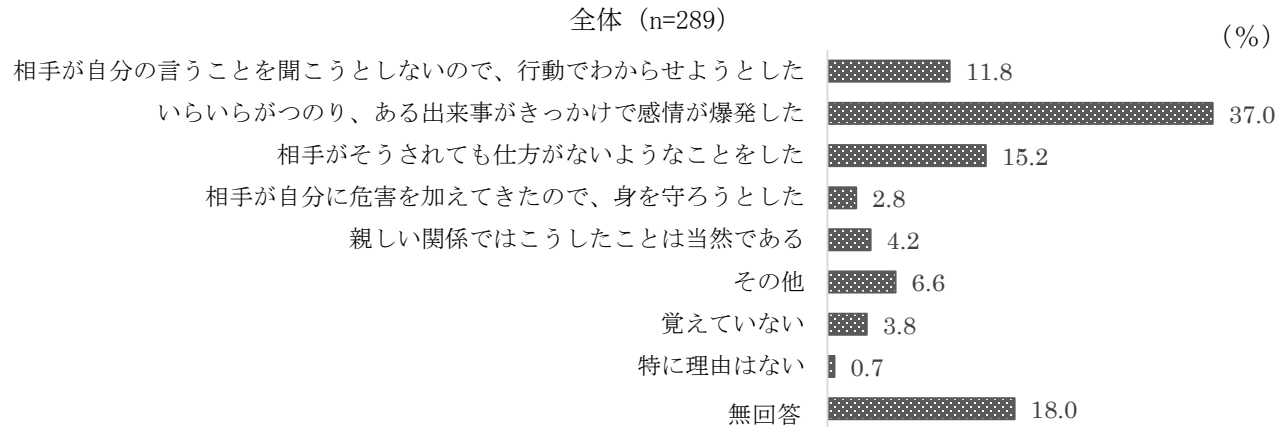
2 配偶者からの加害経験の有無

男女ともに、【大声でどなる】が最も高く、次いで【何を言っても長時間無視し続ける】が高くなっています。



<加害行為に至ったきっかけ>

きっかけは、「いらいらがつのも、ある出来事がきっかけで感情が爆発した」が最も高く、次いで「相手がそうされても仕方がないようなことをした」、「相手が自分の言うことを聞こうとしないので、行動でわからせようとした」となっています。

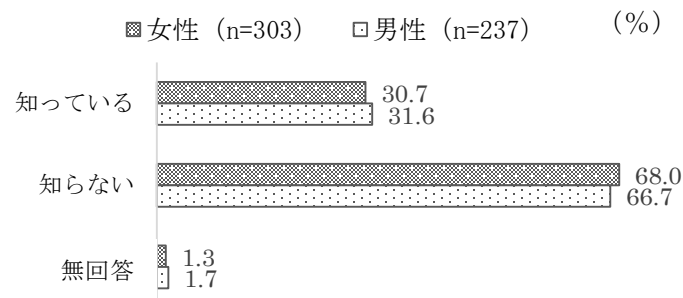


【その他】を選択した方の意見

- ・話し合い不足。お互い相手が嫌に思う事だと言にくい。
- ・お互いに若かったからだと思う。
- ・相手がそういう事をしてきたから。
- ・単なる夫婦喧嘩。
- ・些細な事でだと思う。
- ・必要だから。
- ・冗談で。
- ・「子供がほしい」と言いながら、不妊治療に全く協力をしようとしなかったため。
- ・何度話しても同じだったので、一度無視してお互いに落ち着いてほしかったため。
- ・自分のことをわかってもらえず。
- ・やるべき事を全くしない。
- ・話し合いにならなかった。

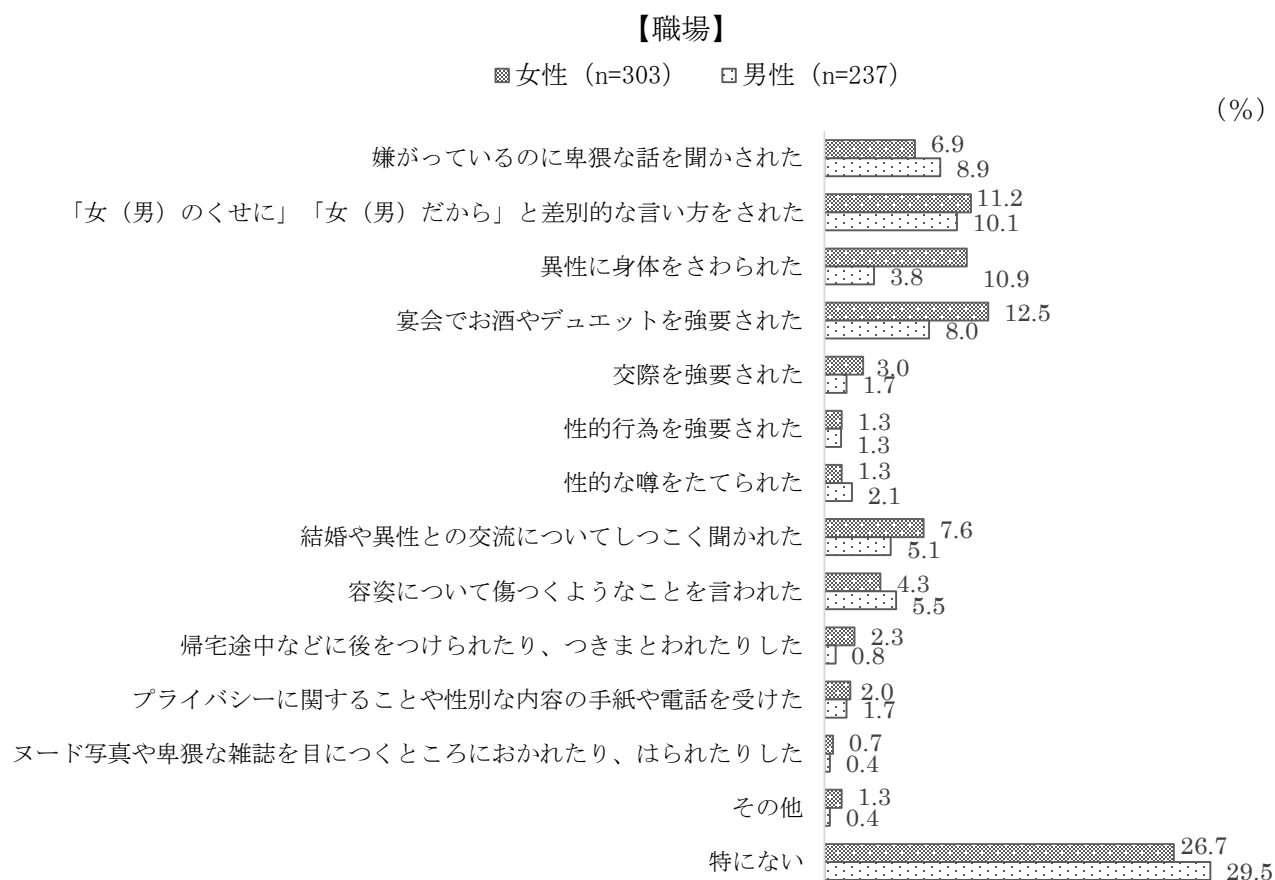
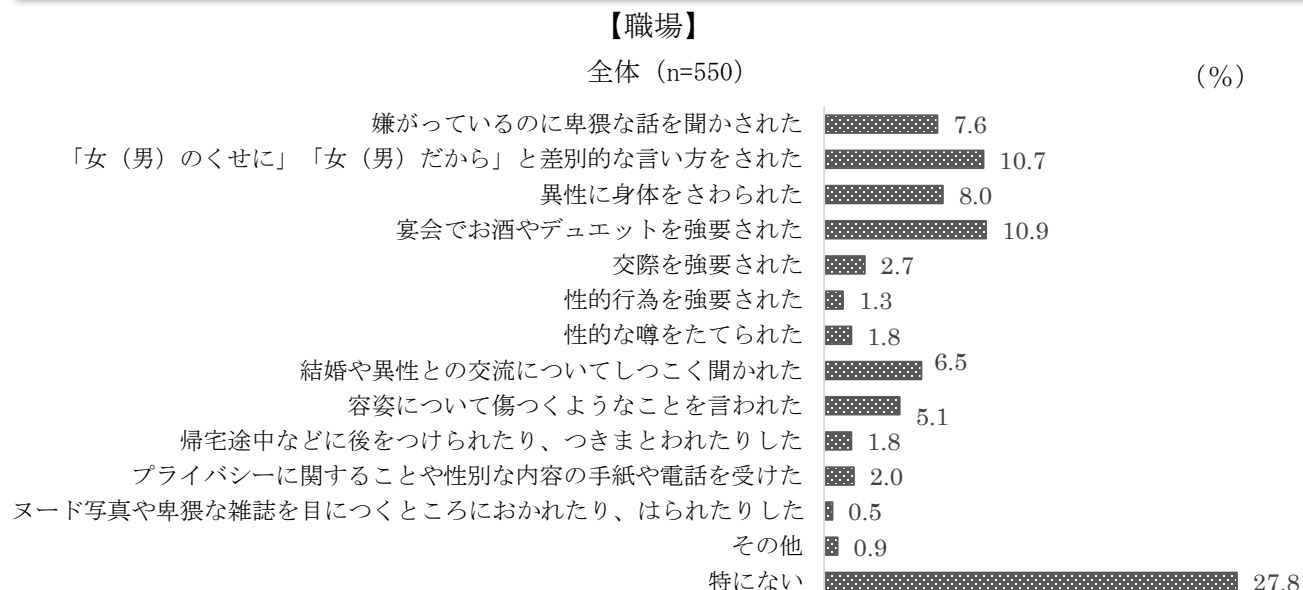
3 配偶者からの暴力について相談できる窓口の認知

配偶者からの暴力について相談できる窓口を知っている方は約3割となっており、男女ともに「知らない」が7割弱で多くの方が相談できる窓口を知りません。



4 不愉快な行為の経験の有無

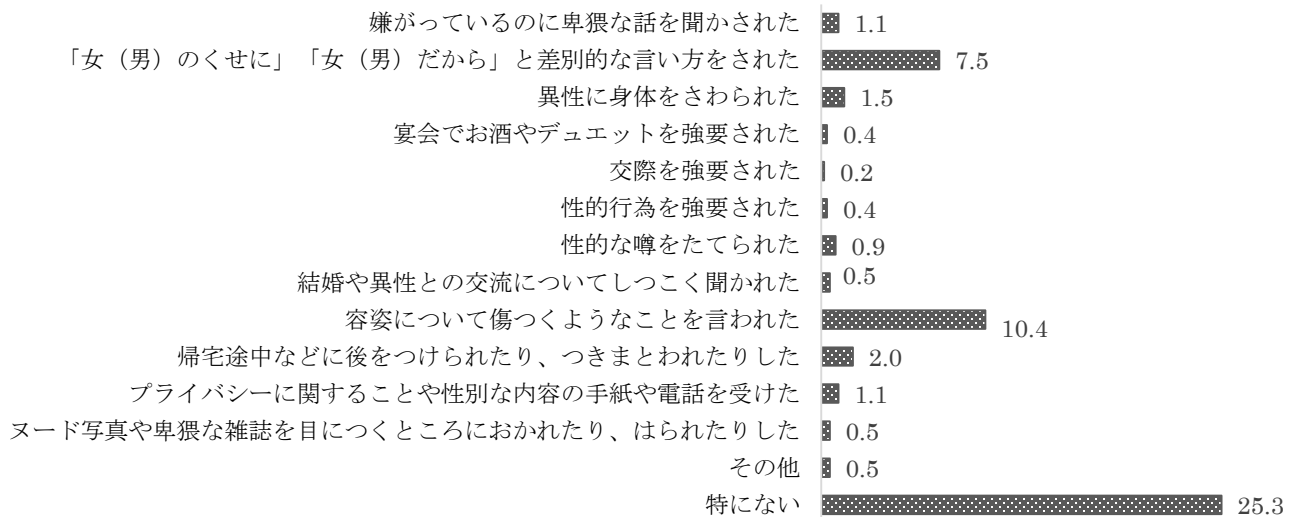
職場において、不愉快な行為を経験することが多く、職場・学校・地域の全ての分野において、【「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた】が高くなっています。性別でみると、女性のほうが男性より不愉快な行為を経験しています。



【学校】

全体 (n=550)

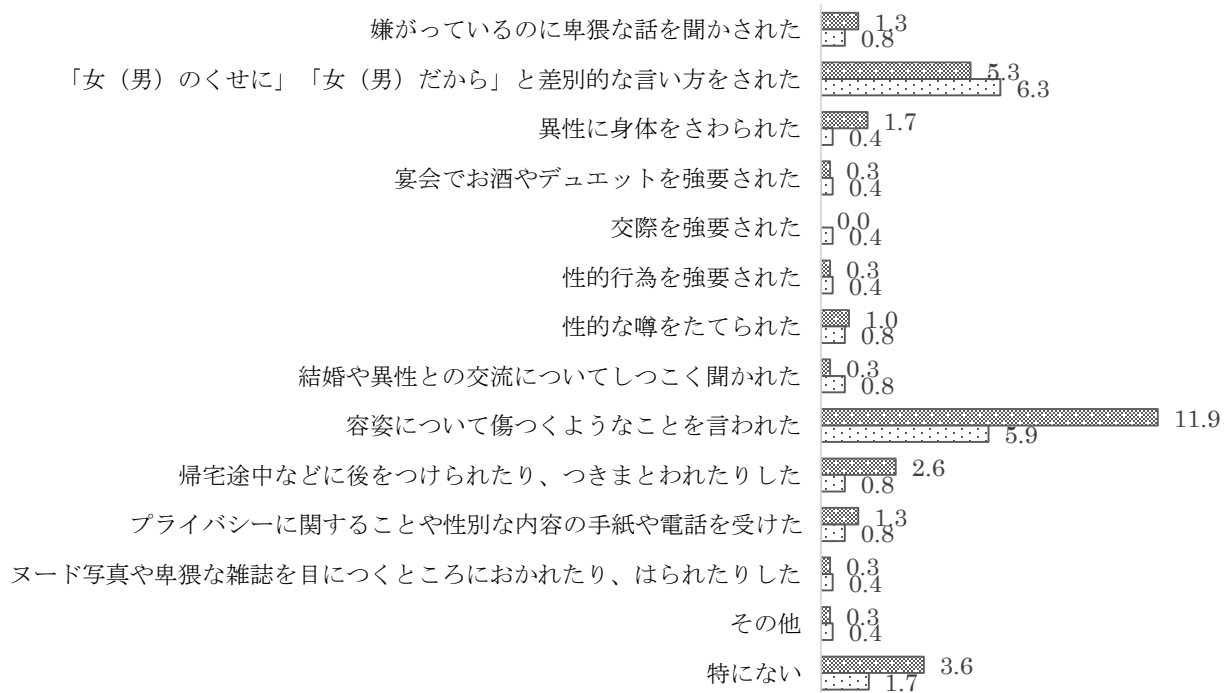
(%)



【学校】

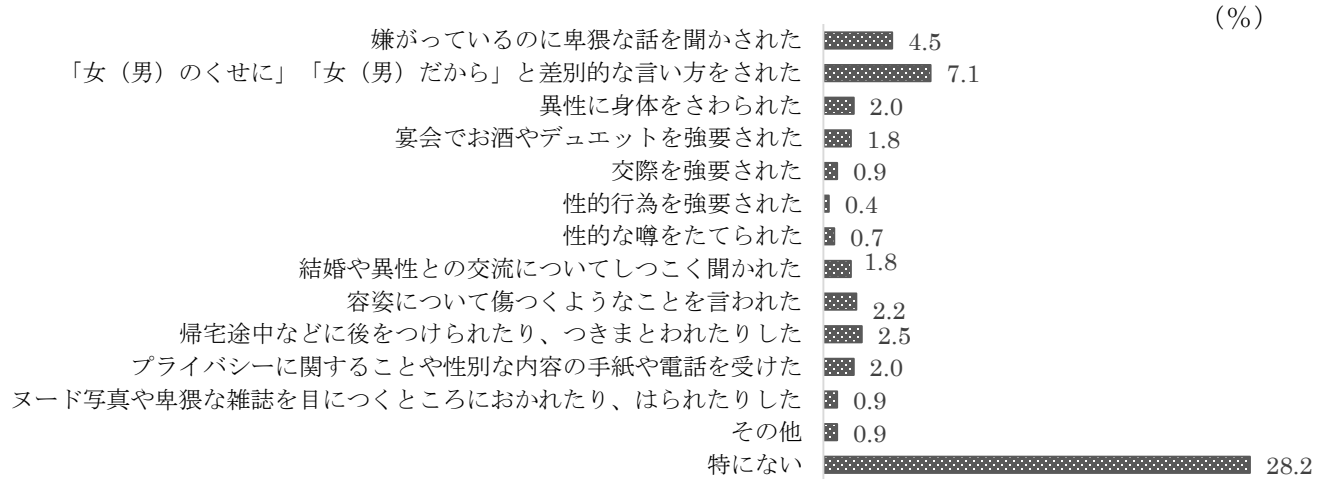
■ 女性 (n=303) □ 男性 (n=237)

(%)



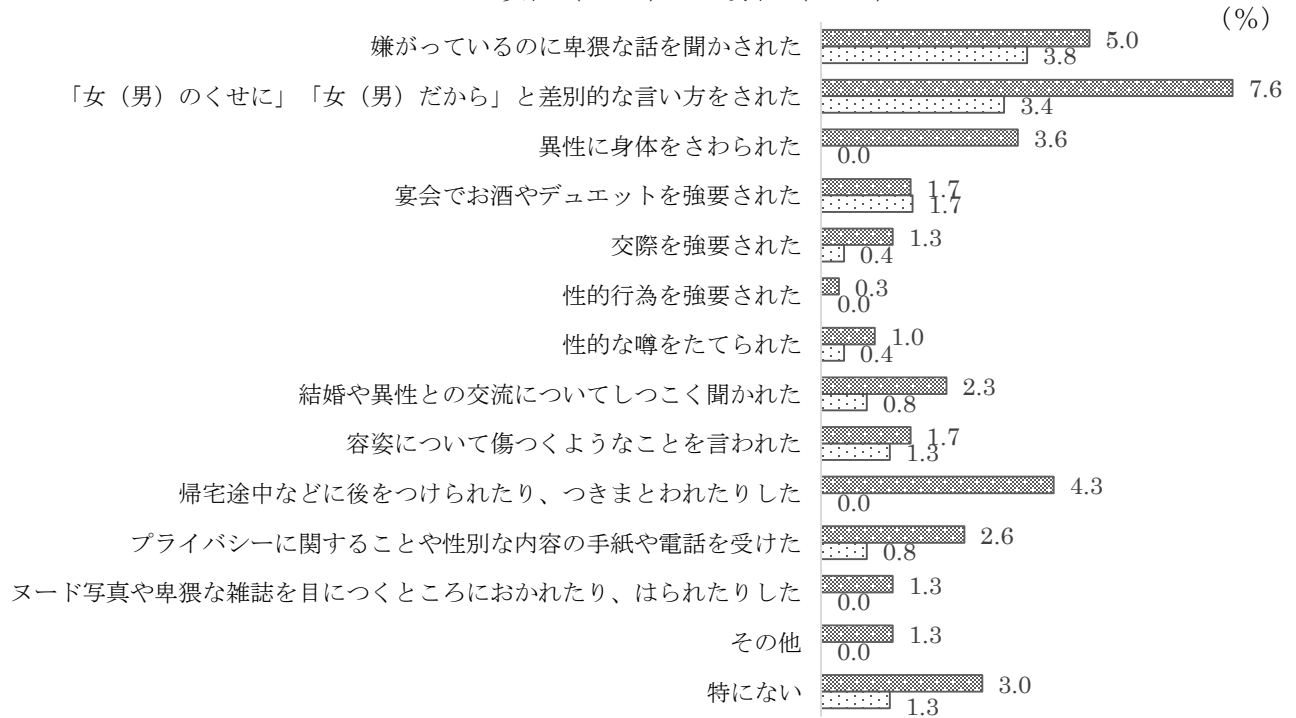
【地域】

全体 (n=550)



【地域】

■女性 (n=303) □男性 (n=237)



【その他】を選択した方の意見 (職場、学校、地域)

- ・ 就労していることについて嫌味を言われた。
- ・ 車で後をつけられた。
- ・ 「女に注意された」と暴力を受けた。
- ・ のぞきをされた。
- ・ いじめ (仲間はずれ、家庭の事情を悪く言う等)。
- ・ からかい。職場でどなられる。
- ・ 上司がこわくて有休がとれない。